

B3
CLASS



優勝 石田忠義

ミドルからのステップアップ組がワンツーフィニッシュ

今回12台と最多エントリーのB3クラス。やはり主流はラジアルタイヤということなのだろうか。第1ヒートは昨年ミドル2位の高倉輝人がベストタイム。2番手にミドルチャンピオン石田忠義がつけ、地区戦チャンピオン市川知章を3番手に押しやった。第2ヒートに入ってもミドル勢のふたりの勢いは止まらない。石田が1秒以上タイム

アップトップに立つと高倉は0.1秒届かず石田の優勝となった。「まさかの地区戦初優勝です。1本目はブレーキングが甘く反省して走りました。次も頑張ります」と大喜び。2位の高倉は「今日はウエットのセッティングで安定重視の走りを考えました。後半がもう少しでした」と反省。3位の市川は「慣れない」と悔やんでいた。



スピードコントロールと
パイロワークが鍵

名阪Cコースは3月でも路面温度の上がらない日が多い。今回のレイアウトはテクニカルとハイスピードのミックス。ギャラリ前のフルターンとゴール前のパイロワークをうまく決めれば勝負は発生する。



●JAF近畿ジムカーナ選手権第1戦 ●JMRC近畿ジムカーナチャンピオンシリーズ第1戦
●JMRC全国オールスター選抜第1戦

RC NARAジムカーナ

3月3日(日)/名阪スポーツランド・Cコース/天候:曇り/路面:ドライ
主催:RC-NARA

Text&Photo:Takatoshi YAMAGUCHI(山口貴利)

S2
CLASS

優勝 吉川寛志



王者たちの壮絶バトルを吉川寛志が制す

3月初旬の名阪は気温が上がらずまだまだ真冬の状態では小雪がちらつくコンディションとなった開幕戦。クラス移動やステップアップでますます面白くなる近畿地区。S2ではチャンピオン6人の戦いが繰り広げられた

PN1
CLASS

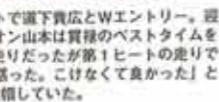


あわや転倒の激走を見せた山本貴嗣が優勝!

昨年のN1.5クラスチャンピオン山本貴嗣は今年も新型スイフトで選手権とWエントリー。翌え翌つは野口孝徳を筆頭とする96名だ。しかしチャンピオン山本は貫録のベストタイムをたたき出す。第2ヒートはインを引っかけあわや転倒寸前の走りだったが第1ヒートの走りで優勝。「新型は乗りやすい。ただタイヤも初めてだったので戸惑った。こけなくて良かった」と2位に入った道下と苦笑い。3位の野口は「新型が速い」と感嘆していた。



2位 道下貴樹



3位 野口孝徳

N1
CLASS

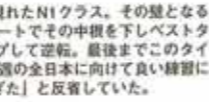


2010年チャンピオン中根卓也が貫録の優勝

昨年のチャンピオン金澤和幸に大きな壁とも見えるライバルが現れたN1クラス。その壁となるのが2010年チャンピオンの中根卓也だ。しかし、金澤は第1ヒートでその中根を下しベストタイム。第2ヒートは中根が修正した走りでも2秒近くタイムアップして逆転。最後までこのタイムは破られず中根の優勝となった。「ひやひやの勝利ですね。来週の全日本に向けて良い練習になりました」と喜んだ。2位の金澤は「逆転されて熱くなりすぎた」と反省していた。



2位 金澤和幸



3位 朝川伸浩

N1.5
CLASS

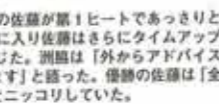


中部地区から遠征してきた佐藤巧が余裕の勝利!

チャンプ不在のN1.5クラスは中部の佐藤巧がエントリー。その佐藤が第1ヒートであっさりベストタイムを出し、近畿勢を高めからの見物だ。第2ヒートに入り佐藤はさらにタイムアップ。酒船茂敏も追い上げを見せたがコンマ9秒届かず2位に甘んじた。酒船は「外からアドバイスももらえる環境にはないので練習会等で修行して次、頑張ります」と話した。優勝の佐藤は「全日本のつもりで走りました。全日本には出たいんですけど」とニコリしていた。



2位 酒船茂敏



3位 藤田哲也

N2
CLASS

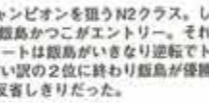


関東からの刺客、飯島かつこが逆転優勝

こちらもチャンプが関東に引越したため今年こそ前田忍がチャンピオンを獲うN2クラス。しかし、今回は関東からの刺客というか出戻りの八本……いや、飯島かつこがエントリー。それでも前田は第1ヒートで飯島を0.1秒下しトップに立つ。第2ヒートは飯島がいきなり逆転でトップに立ち、最終セクテンの前田は「今日は走りがかかん」と言い訳の2位に終わり飯島が優勝。3位に入った岡田香海も「パイロン触ってメロメロでした」と反省しきりだった。



2位 前田忍



3位 岡田香海



近畿ジムカーナ選手権の開幕は、昨年より一週間早い3月3日に名阪スポーツランドにて開催された。昨年の開幕戦は97台。今回は83台の参加と大幅ダウンと言え。寒いのは台数だけでなく外気温も。朝はうすうすと雪が積もり、時折小雪の降る天候に選手もオフイシャルも震えていた。

そんな寒さを吹き飛ばす勢いのクラスがS2クラスだ。まず昨年のチャンピオン吉川寛志はもろんのことB2チャンピオン岩崎玲生、N3チャンピオン石森章太郎がクラスを奪って挑戦してきた。また、インテグラの青田敏、S2000の上月齊の地区戦チャンピオン経験者がこのクラスにエントリー。これに吉川のRX-7で全日本上位入賞経験のある永井克己も参戦し、中部チャンピオン前島孝光までエントリーしてきたため大混戦のクラスとなった。またマシンもRX-7を筆頭にDC2インテグラ、MR2、S2000、NSXと豊富で、見ているだけでも楽しいものとなった。これらの車種と今後のそれぞれのコ

ースの特徴は勝敗を分ける要因になるかもしれない。

さて、クラスのトップバッターは永井。長い競技経験のプランクからそしてハイパワーFRの戸惑いから思い切った走り。パイロントッチと脱輪のペナルティまで食らってしまった。「初めて乗ったけど、アクセル踏んだらこっへ飛んでいくから怖い」とあきれ顔を見せていた。続く出走は前島。さすがに中部チャンピオンの実力を見せN4クラスに匹敵するタイムをたたき出す。続く岩崎はパイロンに沈んだがペナルティがなければ前島に0.4秒差とわずかの差だ。次に光ったのはNSXの石垣宏仁。前島から0.8秒差に付けて今年こそ上位を虎視眈々と狙っていた。しかし、チャンピオン吉川は速かった。前島のタイムをコンマ3秒上まわりベストタイムを出した。

第2ヒートに入り、前島はタイムを落とし吉川を逆転できなかった。それでも2位に入賞し「全日本の名阪を考えて走りましたが、地元の手も速いので簡単には勝てませんでした。いい刺激になりました」と笑顔だった。岩崎は名譽挽回の走り3位。「100%出し切ったけどみんな速い」と脱帽。逃げ切った吉川は「低速がスカスカで走りにくかった。もっとセッティングを煮詰めます」と今後の課題を挙げていた。4位は逆転で青田が入り、昨年のリベンジを誓っていた。